

# 地域と協同の

2016年12月25日発行

# 148号

# 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

## 「特殊講義 協同組合論の開講について」

青木 雅生氏（三重大学人文学部准教授）

三重大学人文学部では、今年度10月より「特殊講義 協同組合論」を新しく開講しました。本講義は、三重県生活協同組合連合会の協力を得て行われています。筆者の専門は経営学で協同組合に関しての学術的知見が十分備わっているわけではないのですが、日本協同組合学会の会長で、龍谷大学農学部教授の石田正昭先生が、つい数年前まで三重大学の教授であったご縁もあり、ご協力いただけることとなったことで、開講することにしました。

この講義は、一般教育ではなく専門科目として学術的な検討も行おうとしています。協同組合が多数存在している理由・意義を再確認するとともに、現代においてその本来の役割を果たしているのか、そして未来において協同組合が存在し果たすべき役割は何か、ということを知りたいと考えています。

この講義の特色は、各協同組合から理事などの方をゲストスピーカーとしてお招きし講演していただくことです。大学の講義で外部の方を多く招いて、学生に実社会に触れる機会を持ったものはそう多くはありません。生協だけではなく、農協、漁協などにも加わっていただいております。多様性もかなりあります。

ゲストスピーカーの方には、組織の紹介、組織の役割・意義・歴史的経緯、近年の特徴的な取り組みや実践例、今後の展望・課題を話していただいております。とりわけ「協同組合らしさ」について触れていただくようお願いしています。また、若手職員の方も連れてきていただき、学生に比較的近い世代の立場から、その組織での仕事内容とやりがいについて語っていただいております。受講生が少しでも身近に感じられるようになり、より協同組合を理解しやすくなればと思っています。

学生の受講後の感想を読むと、正直なところ存在は知っていても何をやっているところか全くわかっていなかった、という状態でしたが、協同組合が自治と相互扶助の精神をもって、企業や行政の届かないところまでケアしていたりする様々な取り組みを知って、その必要性を強く受け止めています。

まだ始めたばかりで目的通りにいっているとはいえない面もありますが、次年度も開講する予定であり、積み重ねていければと思っています。

### CONTENTS

巻頭「特殊講義 協同組合論の開講について」 青木 雅生氏	1
●「持続可能なまちづくりへの提言」第3回公開 学習会報告	2
●とうかい食農健サポートクラブ 学習会 報告	4
●情報クリップ 「お詫びと訂正」「お知らせ」（P.6）	5
■企画案内	8
■書籍案内	
■2017年1月の予定	

### 研究センター 12月の活動

12月1日(木)研究フォーラム「環境」オオブユニティ視察、 名古屋市立大学「寄付講義」準備会
12月2日(金)常任理事会
12月6日(火)研究フォーラム「食と農」世話人会
12月8日(木)組合員理事セミナー第3回
12月10日(土)東海交流フォーラム全体実行委員会、 政策提言第3回公開学習会、理事会
12月14日(水)三重地域懇談会・三重のつどい
12月15日(木)三河地域懇談会・世話人会
12月16日(金)岐阜地域懇談会・世話人会
12月20日(火)研究フォーラム「地域福祉」世話人会
12月22日(木)常任理事会、NEWS編集委員会
12月24日(土)政策提言チーム会合
12月26日(月)研究センターNEWS発送

## 「持続可能なまちづくりへの提言」第3回公開学習会報告

# 地域に貢献する「協同組合間の協同」と「多様なセクター間の協働」

2016年12月10日(土)午後、名古屋都市センターで“持続可能なまちづくり”に向けて、「地域住民を含む多様な協同組織からのアプローチ」と「協同組合間の協同によるアプローチ」の双方から協働と連携の道筋を考える第3回公開学習会を開催し、49名が参加しました。概要を紹介します。(文責:向井忍/研究センター)

### 報告1 協同組合と自治体・社協・NPO・住民組織 中京大学現代社会学部教授 小木曾 洋司氏

#### 1. 「新しい公共」空間を構成する「協働」主体としてのサードセクター。

新自由主義政策としての地方分権化政策は国際貢献国家にシフトさせるため、国民生活に関わる役割を地方自治体に移すものであった。平成の大合併で大規模自治体が誕生した。平成11(1999)～22(2010)年で市町村数は3229から1730に減少し、人口1万未満の小規模自治体は1537から459となった。一方2000年より、明治22年に設けられた機関委任事務が廃止され、自治体の自治事務となり、地方自治から、地域自治へ地域のニーズを満たし改善することが地方自治の存在根拠となる。大規模自治体運営のキーワードは参加から協働へ。大規模合併すると本庁ではこれまでのような目配りができず、住民にやってもらえない。「公共は官の独占物ではない」「自治体、地域社会や市場も含め広く社会全体がその機能を分担すべき」(地方分権改革推進会議2004)と、多様な主体による地域社会のガバナンス(共治)として「新しい公共」が登場する。公的世界の市場化(応益負担)とサードセクターの担い手への導入:公的世界を市場化すると同時に、新しく公共を支える主体としてNPO、協同組合、サードセクターが登場した。サードセクターは行政の低コストな代替システムではないか、そうでないとすれば、どのような役割があるのか検証が必要。自治体との「協働」:政府・自治体と住民の関係も「意思決定への参加」から「地域の維持管理の担い手」へとなった。こうして「都市内分権制度」で「自立した地域社会」を構築する自治基本条例を制定し、地域自治区制度(地方自治法に新設)やコミュニティ組織(地域住民自治組織)が制度化されてきている。

#### 2. 地方分権化の現状と行方—島根県 雲南市の「小規模多機能自治」の事例から。

2015年に小規模多機能自治推進ネットワークがスタートした。小規模多機能自治は、戦後の旧村くらの範囲で行政ができないことを能力と資源を使

って地域の自治組織が担うもの。雲南市は30の地域自治組織がある。公民館の交流センター等の指定管理による事業収入、会費と寄付で運営する。村役場が復活したような仕組み。鍋屋地区の「まめなか君の水道検針」では”まめなかね”と声かけ・見守りをする。不足しているものをどうつくるか。行政にお願いするシステムでなく違う自治のあり方となる。

#### 3. 協同組合の地域社会への参画の道を考える—なぜ他のセクター、団体と連携する必要があるのか

“この指とまれ方式の組織”では他の組織と連携する課題が出てこないが、新しい公共空間では地域のニーズが自治体の自治の基盤になる。協同組合もニーズを満たす主体とならざるを得ないし、連携すべきである。

ニーズの発掘主体としての協同組合=統治構造への参画(行政との連携)条件:大規模化すると経営の論理が大きく左右する。効率性を追求すると事業ニーズを限定してしまい、現場が「この人が言っていることをどう満たせるか」「なんでそう言うのか」に鈍感になる。高齢社会ではニーズの総合化・柔軟な対応ができなければならない。生協もニーズを読み取る力、聴く能力を持つにはどうするか考える必要がある。ニーズは人に聴けばいいことではない。現在の状態に対し、こうあってほしいというもう一つの社会を構想することによってニーズとなる。生協の注文書に健康食品がでてくるが、医療費負担を下げ健康年齢を上げるための自己責任論でなく、身体が悪くなった人を受け入れるように社会構造をどう変えるかとセットでないといけない。聞く能力を鍛えあげることが自治の担い手につながる。

【会場から】「企業の社会貢献スタイルが変わってきている中で生協職員の役割は」「地域では今も女性参加への差別がある」「名張市も小規模多機能型の自治組織をめざし子育て、地域包括ケア、地域福祉教育総合支援システムをすすめ、住民が参加している。」

## 報告2 “協同組合間の連携・協同”をどう進めるか

J C総研 協同組合研究部長 前田 健喜氏

### 1. 地域の協同組合間連携の取り組み

この半年、県段階の話を知っている。協同組合同士は同じ価値を共有し、農業・林業は生活が同じだったように同じく地域を大切にしている。地域の協同組合連携はすすみやすい。産直事例は多いが地域の課題を解決するために連携する方向が大事。

「かのや農林漁業協同組合連携協議会（鹿児島県）」は、トップが集まってアイデア出しをすると事務方が動くスピード感。2015年10月のトップ会談で翌月に一日で漁協、森林組合、JAを回って協議会を設立。「カンパチ de リゾット」のグルメグランプリ出展、熊本地震で炊き出しなど、地域・山、海の資源を生かしている。

「協同組合いばらきネット」では、「いばらきコープ」の子ども食堂に「JA全農いばらき」が食材提供。子どもたちが茨城県産の野菜や果物を学び体験する「キッズマルシェ」でも連携している。JA会館の別棟に生協の事務所があり、県段階で単協含めて参加している。

島根では、2002年から「生協しまね」、「松江保健生協」で、有償たすけあいシステム「コープおたがいさままつえ」を開始、2009年の高齢者千人アンケート報告会にJA等をよびかけ「地域ケア連携フォーラム」を実施。さらに「あったか地域づくり協議会」を立ち上げ、2014年に「地域つながりセンター」が充足。JAの一角に地域つながりセンターをつくる。場所が近いことが大事。「おたがいさま」では、今は応援したい方は保険の関係で生協の組合員に限定しているが、JA組合員もいるので、当該の共済が他の協同組合の組合員でもいいか検討してもらっている。「世の中捨てたもんじゃない」事例集も発行し、2015年の地域フォーラムでは、三つのテーマ「地区、医療、福祉」「子どもの貧困」「生活困窮者」を設けて、社協や引きこもりNPOも入っている。

「JA新ふくしま」と「福島県生協連」では「土壌スクリーニング」で田畑一筆一筆をしらべて詳細な放射能物質の汚染マップをつくっている。「相馬地方森林組合」と「相馬双葉漁協」の協同では森林組合が流木処理をする仕事を市役所から請け負って、漁協組合員を雇っている。

うまくいくときの共通点は、「同じ地域が基盤」「距離が近い」「心理的ハードルを県段階で橋渡し」「双方にとって切実な問題」「おたがいを知る」「会話量を増やす」ということ。

### 2. 都道府県段階の取り組み

都道府県段階の協議会は38県40組織。IYC以降連携の機運が盛り上がっている。「広島県協同組合連絡協議会」では、2004年から協同組合学校、人材育成など。鹿児島KJCでは2016年から協同組合研究会や人事交流、人材育成など。「協同組合ネットいばらき（2013年に41団体で結成）」は、単位組合20JA、6生協も会員になり協同組合学習会では職員のグループディスカッションも行っている。日本労協連の協同集会を契機とした地域版「協同ネット」も広島、千葉、新潟、埼玉、福岡で設立されている。これらの事例の特徴として、的確な運動提起（旗印）が大事。異業種の職員で協同組合理念を学んでいる。地域での協同組合間連携が動きだし、県段階から地域での連携を後押ししている。

### 3. 全国段階の取り組み

「日本協同組合連絡協議会（JJC）」は、日本におけるICA会員の集まり（JA、生協、漁協、森林組合等の全国組織15団体）。IYC記念全国協議会は2012年のIYCの際にできた全国実行委員会を引き継ぎ、2013年5月に設立され、協同の取り組みを継続。2016年3月にさらに3年間の継続を決定。政策提言活動では、協同組合憲章草案をつくり、協同労働学習会。規制改革を懸念する共同声明。持続可能な開発の国内実行の働きかけなどを行なっている。

日本の協同組合の連帯が目指す方向性は、各協同組合同士がさらに連携を強化することを通じて、協同組合セクターの目的・意義を明確にし、協同組合が地域で果たす役割・機能の可能性を、協同組合セクター自らが広げていくこと。目指す方向性に向けた行動提起として、全国・県・地域各段階における協同組合間連携をさらに促進するため、JJCのもとに「日本の協同組合の連帯のあり方検討委員会（仮称）」を設置し、新たな連携組織の必要性やそのあり方を検討している。

【会場から】「農山村移住の就農者に生協が仕事を提供するなど既存の機能を超えた連携が必要」「生協もJAも同じエリアの住民として話できている。」「農・漁協と生協の連携では食と食料の危機感共有化が切り口。」

全体をとおして講師より、協同組合が自らを「開く」こと（小木曾）、協同組合を前提にするのではなく人の生活レベルで連携を発想することが大切（前田）とのコメントがありました。※敬称略

以上

## とうかい食農健サポートクラブ 学習会 報告 「伝統野菜を食べてみよう! ~おいしさの正体」

文責:大島三津夫

とうかい食農健サポートクラブが企画する「伝統野菜」シリーズ第三弾学習会「伝統野菜を食べてみよう! ~おいしさの正体」を11月26日(土)、35名の参加で開催しました。講師は前回に引き続き「あいちの在来種保存会代表世話人・シニア野菜ソムリエ」の高木幹夫さんです。お話の一部をご紹介します。

### ◆ おいしさの正体について ◆

伝統野菜は、もともとは在来種で、昔からあったものです。その中から35品選んでいるのが「あいちの伝統野菜」です。産地の人や風土、食文化を育ててきた地元ならではの野菜です。時代が変わると食生活が変わります。そうすると食材が変わります。風土・食文化を育ててくれた地元ならではの野菜はどうなるか。私たちが感じる「おいしさ」が変わってしまったのではと思います。今日はそんなことで「おいしさの正体」をテーマにしています。

「和食」が2013年12月に、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。しかし「和食」の料理が登録されたわけではありません。「和食」が持っているいろいろな特徴、昔ながらの味であるとか、地域の食文化をつないでくれることとか、そんなことで登録されました。だから「和食」の質から生まれる「おいしさの正体」が、今日テーマです。

### ◆ 五感で味わう「おいしさの正体」 ◆

五感で味わうとは、味覚・触覚・視覚・聴覚・臭覚で味わうということです。味覚では甘味があります。これは日本人が大好きです。甘味を決めるのは35度~37度で決めてください。あまり低い温度で甘さを決めてしまいますと、適温の時に甘くて食べられないということになります。そして酸味があります。「みかん」の酸味はクエン酸、「りんご」の酸味はリンゴ酸、「ぶどう」の酸味はコハク酸など、いろいろな酸があります。苦味もあります。野菜・果物が苦いのは、自分自身を守るためです。種を守るため、身を守るために苦みを増すわけです。うま味、塩味もあります。渋みは渋柿があります。辛みもあります。「あくみ」というものもあります。春の野菜に「あくが強い」というものが多いです。たけのこ、ゼンマイがそうです。春が来て、目覚めるころに、はっきりするため、アクの強いものを食べるわけです。たけのこが来ると春を感じるわけです。春の訪れを、それを食べて感じる、それが「あくみ」です。触覚もあります。食感というの、せんべいのパリパリ感のようにあります。手触りというのは、さわった瞬間の「いいね」という感覚があります。

視覚は、外観です。日本人は80%外観でおいしさを決めます。残り20%が食べて感じます。日本の料理はきれいです。「和食」は置く位置まで決まっています。これが



高木 幹夫 氏

「おいしさの正体」です。他に音は、パリパリとかシャキシャキという音で、耳でおいしさを聴き分けます。嗅覚もあります。香りでおいしさも決まります。「おいしさの正体」はまだまだあります。心理・脳で味わうということもあります。情報もあります。「どどこ産の柿はおいしい」という情報があります。これで「おいしい」ように感じてしまいます。外部環境でも「おいしさ」は違います。夏食べるスイカはおいしいです。環境で味わうということもあります。外部環境、食習慣、食文化、こんなことで価値は変わります。例えば「ねぎ」です。愛知の伝統野菜に「越津ねぎ」があります。関東は根深ねぎです。関西へ行くと、葉ねぎです。

伝統野菜が消えていったわけにもなりますが、旬がみえない産地リレーというものがあります。これができて、家庭の食文化、食生活は豊かになりました。いつでも「トマト」「きゅうり」が食べられます。しかし、このすばらしい仕組みが、伝統野菜、在来種を消して、旬が見えなくなります。

そんなことを考え、今日は5種類の「にんじん」を食べ比べます。(木之山五寸にんじん、アロマレッド、金時ニンジン、カラフルニンジン(黄)、同(紫)の5種類を食べ比べしました。)

### ◆ 野崎白菜を使った肉まん ◆

みなと福祉会わーくす昭和橋の岡本さんから、名古屋市中川区で生まれた愛知の伝統野菜「野崎白菜」を使った「肉まん(招福肉まん)」を紹介いただきました。中川区ではこの「野崎白菜」の収穫時期に毎年「はくちゃん祭り~食べ歩きスタンプラリー」が行われています。

# 情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半 定期/頒布
<p>▶シニアの暮らしを支え、元気な毎日を応援する生協の取り組み</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2016. 12 No. 777</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 シニアの暮らしを支え、元気な毎日を応援する生協の取り組み</b>                  &lt;コープのある風景&gt; コープみえ                  &lt;こんにちは！生協女子ですっ！&gt;                  みやぎ生協・コープ東北サンネット事業連合                  &lt;元気な店舗の取り組みを学ぶ&gt; 青森県民生協 あじさい館                  &lt;宅配・現場レポート&gt; コープしが 高島センター                  &lt;生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP 商品&gt;                  CO・OP 炭火やきとりもも串 (振り塩・しょうゆだれ)                  &lt;☆突撃☆あなたの町の組合員活動&gt; 生協協立社                  &lt;想いをかたちにコープ商品&gt; CO・OP 電子レンジにも強いラップ                  &lt;私の本ナビ&gt; いばらきコープ                  &lt;エッセイ&gt;東京⇄パース 小島慶子の 8,000 キロ通信 空からひとりごと                  &lt;日本全国ふだんの暮らしを支えたい&gt; 大阪よどがわ市民生協                  &lt;明日の暮らし ささえ合う CO・OP 共済&gt; おおさかパルコープ                  &lt;この人に聴きたい&gt;                  車いす陸上競技選手 久保恒造さん                  &lt;ほっとnavi&gt; コープいしかわ コープみやざき</p>	<p>2016 年 12 月 A4 版 36 頁 360 円</p>
<p>▶生協との新たな出会いを作る仲間づくりのチャレンジ</p> <hr/> <p><b>生協運営資料</b> 2016. 11 No. 292 日本生活協同組合連合会</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありがたい！                  沖縄県の地域性、人と人のつながりを大切に                  協同にこだわった事業を追求する                  コープおきなわ ●理事長 山本靖郎氏</p> <p><b>特集 生協との新たな出会いをつくる仲間づくりのチャレンジ</b></p> <p>1 県内の出生世帯の 6 割へのアプローチを実現した子育て支援サービス                  「ちゅきちゅき CLUB」                  生協ひろしま ●執行役員 仲間づくり・共済推進部 統括部長 高浦美穂氏</p> <p>2 店舗の供給を支え、利用の間口を広げたい                  本格展開 2 年目の店舗拡大グループ                  ユーコープ ●店舗運営部 部長 盛田和彦氏</p> <p>3 関西最大級のマタニティーイベントに 4 生協で合同出展                  個別利用の伸長を目標に掲げ、イベント対応を強化                  おおさかパルコープ ●共同購入支援本部 マネージャー 石川秀樹氏                  営業企画 大住元俊治氏                  寝屋川支所 配送担当 川崎美郷氏                  北枚方支所 配送担当 斉藤綾乃氏                  平野支所 配送担当 松田有美子氏</p> <p>4 赤ちゃんグッズ大賞をきっかけに生協をアピール                  ～会員生協と連携した仲間づくり～                  日本生協連 ●事業支援本部 事業支援部 宅配事業支援グループ 松井哲生</p> <p><b>連載</b>                  ●これからの店舗事業のあり方を考える                  第4回 新店は、黒字を続ける店舗事業の試金石                  価値と価格で負けないチャレンジを続ける                  コープネット事業連合・コープみらい ●常務理事 店舗事業本部長 永井伸二郎氏</p> <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ                  第16回 売り込むことをやめ、ニーズを引き出す「質問型仲間づくり」                  (株)リアライズ ●代表取締役 青木 毅氏</p> <p><b>特別企画</b>                  トップが語る わが生協の人材育成の実践と課題                  いばらきコープ ●理事長 鶴長義二氏                  いわて生協 ●代表理事 専務理事 金子敏明氏</p>	<p>2016 年 11 月 B5 版 88 頁 定価 870 円 (送料別)</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定価/税別
<p>▶地域の活性化に向けた JA グループの役割</p> <hr/> <p><b>月刊 J A</b></p> <p>2016. 12 vol. 742</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p><b>特集 地域の活性化に向けた JA グループの役割</b>  <b>地域で安心してくらすために</b>                      ～JA グループにおける助け合い組織のあり方                      池田陽子（NPO 法人 J A あづみくらしの助け合いネットワーク あんしん代表理事 理事長）</p> <p><b>フレッシュミズの歴史を振り返り、地域で何ができるか考えてみよう</b>                      J A 全中組合員・くらしの対策推進部</p> <p><b>道の駅を核とした地域活性化の事例に学ぶ</b>                      永井彰一（（株）田園プラザ川場 代表取締役社長）</p> <p><b>オピニオンリーダーに聞く</b> 伊藤聡子</p> <p>きずな春秋 ー協同のこころー 藩の改革を国の改革へ 童門冬二</p> <p><b>JA トップインタビュー</b></p> <p>「支店行動計画」で地域を支える 谷口節次（鳥取県 JA 鳥取いなば 代表理事 組合長）</p> <p>展望 JA の進むべき道 加賀尚彦（JA 全中 常務理事）</p> <p>日本の台所を守ろう！</p> <p>海外だより [D.C.通信] 連載 67 中村岳志</p> <p>アメリカの日本酒（SAKE）事情</p> <p>平成27年度 JA 経営マスターコース優秀論文紹介</p> <p>全国農業協同組合連合会会長賞</p> <p>地域をつなぐ販売 事業改革の実践 山下大作/JA 鹿児島いずみ（鹿児島県）</p>	<p>2016 年 12 月 A4 版 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶組合員参加と購買活動の相互関係を解明する</p> <hr/> <p><b>生活協同組合研究</b></p> <p>2016. 12 Vol. 491</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 家計簿記帳活動と生協 重川純子</p> <p>▶<b>特集 組合員参加と購買活動の相互関係を解明する</b></p> <p>開会の挨拶 生源寺眞一</p> <p>生協における「組合員参加」を考える 中川雄一郎</p> <p>生協のこれからと組合員の参加 上田隆穂</p> <p>組合員の購買活動と社会的価値 氏家清和</p> <p>組合員の参加は生協のロイヤルティ形成に寄与しているか 中村由香</p> <p>類型別に見た組合員参加の効果 宮崎達郎</p> <p>パネルディスカッション① 分析結果は何を意味するのか？</p> <p>パネルディスカッション② こえからの組合員参加を考える</p> <p>閉会の挨拶 小方 泰</p> <p>■時々再録</p> <p>ペシヤワールの会 中村哲氏講演 「100 の診療所より 1 本の用水路」 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで（2016・10） 近藤丈二・伊野瀬十三</p> <p>■私の愛読書 藤本 昌</p> <p>押尾直志 『現代共済論』</p>	<p>2016 年 12 月 68 頁 B5 版 500 円(+税)</p>

**【お詫び】** 研究センターNEWS・147号にて掲載した野原敏雄氏による執筆「『Well - Being（福祉）社会』への期待」にて、「Well - Being」の記載が1か所、「Well Being」となっておりました。お詫びして訂正させていただきます。

地域と協同の研究センター・編集事務局

**「協同組合がユネスコの『無形文化遺産』に～世界 100 か国以上に 10 億人の組合員～」**

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）は 11 月 30 日、エチオピアのアディスアベバで開催された無形文化遺産保護条約第 11 回政府間委員会において、「共通の利益の実現ために協同組合を組織するという思想と実践」のユネスコ無形文化遺産への登録を決定しました。

日本協同組合連絡協議会（J J C）が 12 月 14 日、報道各位宛に案内した文書を別紙にて紹介いたします。

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定価(税別)
<p>▶オバマ医療改革法                      (ACA法)と無保                      険者</p> <hr/> <p><b>文化連情報</b>                      2016. 12                      No. 465</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー (34)                      まだ200人ほど避難生活                      塚本 治男  <b>組合員のメンバーシップ強化と厚生連医療</b>                      東 公敏                      院長リレーインタビュー (295)                      地域で唯一の急性期病院として                      馬場 良和                      福島の未来につながる復興支援                      IYC支援隊2016 in 福島                      秋元 恵介 ・ 小山 森也</p> <p>アメリカの医療制度 (3)                      オバマ医療改革法(ACA法)と無保険者                      高山 一夫</p> <p>韓国農業の実相 -日本との比較を通じて (4)                      耕者有田と農地の流動化                      品川 優</p> <p>臨床心理メディエーション (7)                      安楽死と尊厳死 (1)                      中西 淑美</p> <p>農村医学は世直し運動! ~ 私の歩んできた道(21)                      続、結果を出す!                      小山 和作</p> <p>着々と進む高齢者医療・介護の制度改革論議                      ~急がれる厚生連の連携対応~                      東 公敏</p> <p>平鹿総合病院栄養科の取り組み (3)                      病院の衛生管理と食中毒対策                      石山 香</p> <p>おたね人参の生産復活と太陽光発電の取り組み                      大平 佳男</p> <p>岡田玲一郎の間歇言 (139)                      病床過剰にどう備えるのか                      岡田玲一郎</p> <p>「地域包括ケア」のモデルづくりと安心して暮らせる町づくりへの挑戦                      -福祉の協同を考える研究会第11回現地研究会・定期総会-                      小磯 明</p> <p>デンマーク&amp;世界の地域居住 (91)                      オランダの革新⑫                      医療・介護改革の歴史と背景                      松岡 洋子</p> <p>熱帯の自然誌(9) ことば その二 アパ・イニ?                      安間 繁樹</p> <p>デンマーク コペンハーゲン フェレルゴーン(4)                      スヌーズレンルームとディスカッション                      小磯 明</p> <p>●野の風●                      いつまでも最高の笑顔で / 大塚 広美</p> <p>□書籍紹介 『医政羅針盤』 / 小磯 明                      □書籍紹介 『アジアの医療提供体制』 / 小磯 明                      □書籍紹介 『朝もやっついて』 / 元谷 彰弘</p> <p>▶線路は続く (105) 日光線イズジャパン / 西出 健史                      ▶最近見た映画 手紙は憶えている / 管原 育子</p>	<p>2016年                      12月                      B5版                      80頁                      文化連情報                      編集部                      03-3370-2529                      *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

# 企画案内



## ～わいわい子ども食堂学習交流会～

# 「なぜ子どもの居場所づくりなのか?！」

## ～「子ども食堂」の実践から考える～

日時：2017年1月15日(日) 10:00～13:00 参加料：無料  
場所：北医療生活協同組合 すまいるハートビル2階 ワイワイルーム

※名古屋市北区上飯田北町1-20 地下鉄 上飯田駅2番出口から東へ徒歩3分

貧困とは単に金銭的なことだけでなく、人間関係の貧困が現代の貧困ではとされています。複雑な現代社会の中で、子どもの見守りや子育て支援などに地域住民としてどのようにかわり、何が求められているのか。子ども食堂の実践などから子育て支援について考える機会としたいと思います。

### 第1部「講演」①『子どもの貧困問題と行政・自治体などの役割とは』

講師 岩城 正光さん(弁護士・前名古屋市副市長)

### ②『児童相談から見えてきた子どもの生活実態』

講師 酒井 保治さん(名古屋市職労福祉支部執行委員)

### 第2部「報告&交流」①「現代日本の子どもの居場所」

—愛知県における「子ども食堂」の現状と課題 中京大学現代社会学部 成(ソン)教授ゼミ生

### ②子ども食堂の実践報告 ③意見交換

主催：わいわい子ども食堂プロジェクト運営委員会

申込・問い合わせ：杉崎伊津子 Tel.052-981-3117 Email:tewatasukai2016@yahoo.co.jp

### 書籍案内



### 男性問題から見る現代日本社会

池谷 壽夫(編集), 市川 季夫(編集), 加野 泉(編集)  
出版社：はるか書房 出版年月：2016年9月 税込価格：1,836円  
頁数：159P サイズ：単行本

編者 池谷 壽夫 氏(了徳寺大学教養部 教授)からご紹介  
この本は、家族の身近な相談事例から、学校生活、セクシュアリティ、若者支援、育児、労働まで、ライフステージの各段階で男性が直面する問題をリアルに検討しています。その際私たちは、男性が抱える弱さと生きづらさに寄り添い、男女や多様な人々がもっと楽に安心して生きることができると社会を展望しようと考えました。また、「コラム」や「キーワード・チェック」を配することで、読みやすいようにしました。本書をきっかけに、男女や多様な人々の間で対話がいつそう深まっていくことを願っています。名古屋家族相談室の市川季夫さんや執筆者の多くは名古屋近郊の方々です。

※「男性問題から見る現代日本社会」購入を希望される皆様は、「地域と協同の研究センター」事務局(大島)までご連絡ください。

2016年12月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP http://www.tiiki-kyodo.net/

### 研究センター 2017年1月の活動予定

1月11日(水)研究フォーラム「環境」世話人会

1月14日(土)共同購入マイスター第7期生実践交流会

1月16日(月)尾張地域懇談会・世話人会

1月20日(金)くらしを語り合う会

1月21日(土)政策提言会合

1月24日(火)研究フォーラム「食と農」世話人会,

常任理事会

1月25日(水)三河地域懇談会・世話人会,

研究センターNEWS発送

1月26日(木)組合員理事ゼミナール第4回

1月28日(土)共同購入マイスター⑥

2016年も研究センターNEWSをご愛読くださりまして、誠にありがとうございました。来る2017年も皆様にとって素晴らしい年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。